

ふくしまという土地に
呼ばれたような
気がするんです

ふじしろ ひかり
藤城 光

未来会議事務局メンバー

昭和49年（1974）、茨城県水戸市出身。

埼玉大学卒業後、東京でグラフィックデザインの仕事に就く。

2010年に夫の実家があるいわき市に移り住み、デザインの仕事とともに現代アートの制作にも取り組む。『PRAY+LIFE』主催。

「できることは何でもやろう」と震災後のいわきで思いました。

明日、私たちは生きていないかもしれない。それなら人々の体験や想いを残したいと、ボランティア活動の傍ら出会った人などから話を聞き、一人一つの物語として書き残す「PRAY+LIFE」を始めました。

当時はメディアが取り上げきれなかった一人一人の日々、ささやかな出来事に目を向けると、立場や考え方の違いがもたらす難しさが見えてきました。

お互いを知る「対話の場」が必要と考え、あるワークショップで同じ思いの仲間と出会い、「未来会議」を始めました。いろいろな人がその時々思いを話す対話の場を、繰り返し開き記録していきました。毎回60人～130人の人が集まり、26回に。未来会議は30年続けようとしています。ここから新しい出会いや取り組みも生まれ、未来への種まきの場にもなっています。

私はいわきに来てから、「土地や物に刻まれた記憶」をテーマに作品づくりをしています。時々、この土地に呼ばれたんじゃないかと思うときがあります。今は不要に見えるものが、生きた証のように100年後、1万年後、別の意味をもって立ち上がるかもしれない。

そう考えると一瞬一瞬がとてもかけがえのないものに思えるのです。



ワークショップ形式の対話の場である未来会議。
異なる価値観の人たちがお互いに耳を傾けあう